

府縣市町村より見たる道路事業〔九〕

平井良成

地租軽減ノ詔 明治十年一月四日太政官布告第一號を以て

地價百分の二分五厘に軽減せられたるが其時の詔に曰く

朕惟フニ維新日淺ク中外多事國用實ニ贅ラレス、而シ

テ兆民猶疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ愍

ミ曩ニ舊税法ヲ改正シテ地價百分ノ三トナシ偏重無カラ

シメントス。今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ

念フ、税額ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン、有司

宜ク痛ク歳出費用ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ贊クヘシ。

民費賦課年限 十年一月四日太政官布告第二號を以て明治

六年七月布告第二七二號（即ち神課ノ儀ハ明治十年ヨリ

租五分ノ一ヨリ超過スヘカラスと定めらる、更に同年二

月二十四日太政官布告第二三號を以て同年七月より施行

することとなつた。(十一年布告第一九號に依り消滅)

民有荒地處分規則 十年一月二十日太政官布告第八號を以て

民有荒地處分規則を發布せられた(十七年布告第七號に

依り消滅)

諸書ノ姓名ハ自書シ實印ヲ押サシム 十一年七月七日太政官布

告第五〇號を以て諸證書の姓名は必ず本人自ら書して實

印を押すへし若し自書すること能はざる者は他人をして

代書せしむるを得ると雖も必ず其實印を押すべし其代書

せし者は本人姓名の傍に其代書せし事由と己れの姓名と

を記して實印を押すへしと達せらる。

地租徵收期限改定 十年七月十四日太政官布告第五三號を以

て明治九年布告第三號地租徵收期限に付耕地の内實際に

就て田畑を區分し其他各種の地租徵收期限（市街地租は七月一日兩期に五分つゝ）を六期に分つことと定められた。

利息制限法 十年九月十一日太政官布告第六六號を以て利息制限法を發布し契約上の利息は元金百圓以下は一ヶ年二割百圓以上千圓以下は一割五分千圓以上は一割二分以下とし夫れ以上の利息は裁判上無効とし裁判上の利息は年六分とせられた。

租税未納ノ者身代限ヲ廢シ更ニ處分ヲ定ム 十年十一月太政官布告第七九號を以て租税未納の者に對し身代限を以て取立てたるも自今區別相立處分すへしと定められた（明治二十二年法律第三二號を以て廢止）即ち

第一條 徵收期限（毎期ヲ云フ）後三十日ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財産ヲ公賣シテ徵收スヘシ若シ其財産他人へ賣與讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムヘシ

但書入質入（地所質入ハ其規則ニ從フ）ノ財産ニ未

納税アル時其債主ニ於テ辨納スヘシト申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハス

第二條 營業稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ但シ釀造稅モ本條ニ據テ處分スヘシ

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシ但各別ニ財産ヲ指定シテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財産ニ付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財産ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス、但該財産ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付ス

地租金田方半額當分代米納ヲ許ス 十年十一月二十二日太政官布告第八〇號を以て地租金の内田方に限り當分人民の情願に任せ半額其府縣の地租改正に用ゐたる相場を以て代

未納を差許す旨を達せられた。

郡區町村編制法 十一年七月二十二日太政官布告第一七號を

以て郡區町村編制法を定められた（本誌第一五卷第七號

一六頁參照）

府縣會規則 十一年七月二十二日太政官布告第一八號を

以て府縣會規則を定められた（本誌第一五卷第七號一七

頁以下參照）

地方稅規則 十一年七月二十二日太政官布告第一九號を

以て地方稅規則を發布せられた（本誌第一五卷第七號二

四頁以下參照）

地方官會議憲法並議事規則ノ改定 十一年三月十五日太政官達

第九號を以て地方官會議憲法及議事規則を改定せられ

た。

演說會ヲ開キ國安妨害ニ渡ルモノ禁止 十一年七月十二日太

政官達第二九號を以て「近來地方ニ於テ國事政體ヲ談論

スルノ目的ヲ以テ何某社ト稱シ或ハ演說會ヲ開キ多衆聚

合スル者有之趣相聞ヘ右ハ警察官ニ於テ視察ヲ加ヘ萬一

其舉動民心ヲ煽動シ國安ヲ妨害スルニ涉リ候者ト看認候

節ハ東京府下ハ警視長各地方ハ其長官ヨリ令禁止其事情

ヲ具ヘ内務卿ヘ届出ツヘキ旨」を達せられる（十三年布

告第一二號に依り消滅）

地方稅費用中官費支出ニ係ルモノ從前ノ通 十一年七月二十二

日太政官達第三〇號を以て地方稅を以て支辨すべき費用

第一九號布告を以て定められたるも右費用中官費支辨に

係る者は猶從前の通下げ渡すべき旨を達られた。

府縣官職制 十一年七月二十五日太政官達第三二號を以

て明治八年十一月第二〇三號太政官達府縣職制並事務章

程を廢し府縣官職制を定められた（本誌第一五卷第九號

二五頁參照）

府縣官任期例 十一年八月六日太政官達第三五號を以て明

治九年七月第七五號達縣官任期例を改定せられた（十七年

第一七號達に依り廢止）即ち

府縣官任期例

一、凡ソ府知事縣令ニ任スル者ハ一任十二年トス每三年

一期トス毎期其治績ヲ考ヘ職ニ稱フ者ハ仍ホ後期ヲ續カシム

一、初メテ府知事縣令ニ任スル者ハ月俸二百圓ヲ給シ職ニ稱フ者ハ三年毎ニ月俸五十圓ヲ加フ九年ニ至リ勳任トナス十二年任滿ルノ後仍ホ任ヲ續クコトヲ得但シ俸ヲ加ヘス

一、十二年ニ滿テ任ヲ辭スル者ハ常法ノ滿年賜金ニ換ヘ月俸拾倍ノ金ヲ賞賜ス其十二年以前他官ニ在リシ者ハ前任ノ年間ハ常法賜金ニ依ル其十二年ヲ踰エ仍ホ任ニ居ル者ハ猶ホ其十二年ノ後ノ任間一年毎ニ一月俸金ノ半ヲ賜フコト常法ニ依ル

一、書記官ハ任期ナシ但シ三年毎ニ其勤怠ヲ考ヘ其勉勵衆ニ超ユル者ハ一月俸金ヲ賞賜ス

一、屬官ハ一年毎ニ其勤怠ヲ考ヘ其勉勵衆ニ超ユル者ハ一月俸三分一ノ金ヲ賞賜ス

變 例

一、現ニ府知事縣令タル者ハ本例發行以前本任ノ年數ハ

任期ヲ追算スルコト本例ニ依ル其他府縣ノ知事令ヨリ轉任シタル者及ヒ曾テ府縣ノ正權知事タリシ者ハ並ニ其前任ノ年數ヲ以テ任期ヲ追算スルコト亦本例ニ依ル
一、他官ヨリ府知事縣令ニ轉任スル者初期ノ例ヲ以テ順次任期ヲ遂フコト本例ニ依ル

地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及制限 十一年十二月二十日太政

官布告第三九號を以て地方稅中營業稅雜種稅の種類及び

制限を定められた(本誌第一五卷第九號二五頁以下参照)

郡區町村編制府縣會地方稅兩規則施行順序 十一年七月二十二

日太政官無號達を以て郡區町村編制府縣會規則地方稅規

則施行の順序を左の通定められた

一、從前地方ノ區畫區々ニ有之不都合不尠候處今度郡町

村ノ制一途ニ被定候ニ就テハ各地方速ニ改正スヘシト

雖其組替一時ニ難行屆事情ノ向ハ實地都合ニ應シ漸次

引直シ民間ノ混雜ヲ成サ、ル様注意ヲ加フヘシ又從前

大小區ノ外組合町村ノ仕法致シ來リ候分或ハ從前郡區

ノ積金又ハ共有財産ノ其性質地方一般ノ事ニ當ツヘキ

モノニアラサル分等ハ元來行政區畫ノ事ニ關セサル者
ニ付其人民ノ便宜ニ任スヘシ

二、郡町村ノ區域ハ總テ舊ニ依ルト雖郡ノ境界錯雜シ又
ハ地形不便ナル者ヲ組替ヘ及ヒ町村ノ飛地ヲ組替フル
等不得止分ハ地方長官ヨリ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ受
テ施行スルコトヲ得ヘシ其大郡ヲ畫シテ數郡トシ及ヒ
市街ノ區制ヲ定ムルハ政府ノ裁定ヲ仰クタメ地方長官
ニ於テ取調ヘ内務卿ニ伺出ヘシ

三、郡村制置ノ外都府港市ノ地人民輻輳貿易繁昌ノ所ハ
郡村ト其利益情態ヲ異ニスルヲ以テ一般ノ郡政ト概行
スヘカラス故ニ郡ニ拘ラス別ニ區トナシ市政ヲ以テ治
ムルヲ要スヘシト雖モ其郡ヲ變更シテ更ニ某區ヲ置ク
ニアラス即チ某郡ニシテ其中ニ某區アルアリ又某區某
々ノ郡ニ跨ルアル等地理上ニ於テハ總テ舊ニ依ラシム
ヘシ又市井一圓ヲ以テ一區トシテ統治スヘキアリ或ハ
其廣濶ニシテ統治ニ難キヲ以テ分テ數區トナスアル等
各地ノ便ニ從フヘシ其分テ數區トスルモノ或ハ第一區

第二區ト稱シ或ハ某區（其地方固有ノ名稱ヲ用ユルカ
如シ）ト稱スル等其便ニ從フ要スルニ制度ニ拘ハリ便
宜ヲ妨ケサル様心得ヘシ

四、三府及其他市街ノ區及各町村ハ其地方ノ便宜ニ從テ
町村會議又ハ區會議ヲ開キ及ヒ地方稅ノ外人民討議ノ
費用ハ地價割戸數割又ハ小間割間口割歩合金等其他慣
習ノ舊法ヲ用ユル事勝手タルヘシ但シ町村會區會ノ章
程規則ヲ制定スル分ハ内務卿ニ届出認可ヲ受クヘシ

五、地方ノ事情ニ因リ府縣會開設ノ緩急モ可有之ニ就キ
開否共地方長官ノ意見ヲ以テ内務卿ニ具申スヘシ

六、議員ノ員數郡區ノ大小ニ應シ均一ナラサルヘキヤニ
就キ初度ノ選舉ニ於テハ地方官ノ見ル所ヲ以テ各郡
區ノ多寡ヲ定メ更ニ縣會ノ議ニ付シ其第二度選舉即初
度選舉即初
ヨリ第三年ヨリハ縣會ノ議決スル所ノ員數ニ從フヘシ

七、地方稅規則ニ依リ改正スルハ明治十一年度ヨリ施行
スルモ十二年度ヨリ施行スルモ各府縣長官ヨリ内務卿
ニ具申シテ便宜ニ從フヘシ但十二年度ヲ越ユルヲ得ス

八、地方税従前地所割戸數制相半シ或ハ地所幾歩戸數幾歩ニ課スル等各地方ノ慣習一樣ナラサル者一切各地方ノ便宜ニ從ハシムヘシ

九、營業税及雜種税ハ別段ノ布告ニ從テ各定分アリ幾年度費用ノ多寡ヲ以テ増減アルコトナカルヘシ故ニ地方税ノ豫算ハ其營業税雜種税ノ徵收額ヲ除ク外其他地價割戸數割ヲ以テ賦課スルハ其年度ノ費用ニ從ヒ増減アルヘシ

十、定リタル地方税費用ノ外猶地方ノ費用ニ屬スル項目アルトキハ内務卿ヲ經テ陳情シ特ニ政府ノ議定ヲ仰クヘシ

十一、戸長ハ行政事務ニ從事スルト其町村ノ理事者タルト二様ノ性質ノ者ニ付其費用ノ地方税ヲ以テ支辨スヘキト町村又ハ區限協議費ヲ以テ支辨スヘキトハ其事務ニ就キ區分スヘシ

十二、地方税ヲ以テ支辨スヘキ事件ト町村又ハ區限ノ協議費ヲ以テ支辨スヘキ事件トノ區分ハ凡ソ地方一般ノ

利害ニ關スルモノハ地方税支辨ノ部ニ屬シ其町村限區限又ハ數町村其他ノ利害ニ係ルモノハ其町村又ハ區内限協議費ノ支辨ニ屬スヘシ(十二年二月二十七日太政官達參考)

(十二年二月二十七日太政官達無號河港道路堤防橋梁費ノ件ハ明治十一年七月第一九號布告ヲ以テ相定メ右施行順序ノ件ハ同年七月二十二日號外達第一二項ノ通相達置候得共自然各地方ノ慣行ニヨリ右ニ準據シ難キ分ハ府縣會ノ決議ヲ以テ暫ク舊慣ニ因リ施行シ不苦候條此旨爲心得相達候事)

府縣會規則第十三條第二款改正 十二年四月四日太政官布告第一三號を以て府縣會規則中第十三條第二款を左の通改正せられた

懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニアラス

金穀公債共有物取扱主未起功ノ事項ハ區會町村會議ニ付シ施行スル件 十二年六月二十四日太政官布告第二十二號を以て

「區會町村會ヲ開設セル地方ニ於テハ明治九年十月第一三〇號布告金穀公借共有物取扱土木起功ノ事項ハ總テ該會議ニ付シ施行スヘシ」(十三年布告第一八號法律第一號ニ依リ消滅)

地所名稱區別中改正 十二年九月一日太政官布告第三四號を以て「明治七年十一月第一二〇號布告地所名稱區別中官有地第二種第四種區入費ヲ賦スルトアルヲ地方稅ヲ賦セサルトシ第三種但シ借地料及ヒ區入費ヲ賦スヘントアルヲ借地料ヲ納メシムヘントシ其地區入費トアルヲ都テ地方稅ト改正」す

集會條 例 明治十三年四月五日太政官布告第一二號を以て集會條例を定められ政治に關する講談論議の目的を以てする集會は開會三日前所管警察署の認可を受けることと又其結社等に關しても總て認可を受けしむることとなつた

郡區町村編制法中改正 十三年四月八日太政官布告第一四號を以て郡區町村編制法に左の通追加せられた

第七條 此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異スルヲ得

第八條 地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スル事ヲ得

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキ

ハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受ヘシ

但町村區域名稱ノ變更ハ内務卿ノ認可ヲ受クヘシ

府縣會規則改正 十三年四月八日太政官布告第一五號を以て

明治十一年七月第一八號布告府縣會規則を改正せられた

(本誌第十五卷第七號二四頁參照)

地方稅規則中改正 十三年四月八日太政官布告第一六號を以て

明治十一年七月第一九號布告地方稅規則を改正せられた

(本誌第十五卷第七號二四頁以下參照)

地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及制限改正 十三年四月八日太政

官布告第一七號を以て地方稅中營業稅雜種稅の種類及制

限に改正を加へられた(同上)

區町村會法ノ制定 十三年四月八日太政官布告第一八號を以て

區町村會法を制定せられた(同上)